

令和3（2021）年度第1回栃木県行政改革推進委員会会議結果の概要

- 日時：令和3（2021）年8月5日（木）10時00分～11時29分
- 会場：栃木県公館大会議室
- 出席者：安藤委員、岩見委員、植松委員、岡本委員、加藤委員、岸本委員、児玉委員、鈴木委員、田部井委員、長谷川委員、吉成委員、渡辺（幸）委員、渡辺（修）委員

〔県〕 國井経営管理部長、廣川行政改革ICT推進課長、天海内部監査室長、秋田課長補佐（総括）

1 経営管理部長あいさつ

今回の委員改選により7名の方々に引き続き、6名の方々に新たに御就任をいただいた。委員の皆様方には、お忙しい中、御就任いただき、心から御礼を申し上げます。

この行政改革推進委員会は、栃木県の行財政改革の推進等に当たり、委員の皆様から様々な御意見を頂戴し、今後の行財政改革に生かしていくという貴重な場となっている。

本日は、行財政改革大綱である「とちぎ行革プラン2016」の取組結果に加え、昨年度初めて導入した内部監査制度の評価結果を御報告するとともに、今年度本委員会に専門部会を設けることを考えている特定指導法人の見直しについて、御説明を差し上げる。

委員の皆様方には、幅広い御見識から、忌憚のない御意見を頂けるようお願いする。

2 会長選出

委員の互選により、児玉博昭委員が会長に選出された。

3 会長あいさつ

私は以前、本委員会で委員を務めた経験があり、10年以上も前になるが、規制改革や出資法人改革の部会で活動し、私自身も大変、勉強になった。

最近でも、栃木県の重点戦略の策定や、地方創生総合戦略の評価に関わっているが、私にとって本委員会は、栃木県政に初めて参画した、非常に思い出深い委員会である。初心にかえり、精一杯努めて参るのでよろしくお願いする。

本委員会が県の行財政改革推進のお役に立てるよう、委員の皆様が、それぞれの専門分野或いは一県民としての立場から、活発に御議論いただくようお願い申し上げます。

4 会長代理指名

会長から岡本篤典委員が会長代理に指名された。

5 議事

(1) とちぎ行革プラン2016の取組結果について

－事務局から資料1－1、1－2により説明し、意見交換等を行った。

○委員

ホームページアクセス件数が大幅に増えた要因についてお尋ねする。

○県

ホームページの方にコロナ関係の感染状況や、対策に関する情報をまとめて掲載しており、そちらへの県民からのアクセスが増えたことが主な要因と思われる。

○委員

5,947億円という県債残高の目標額の根拠を教えてください。県内総生産5%ちょっと超えるぐらいということか。

○県

基本的に策定当時の残高を増やさないという考え方である。

○委員

県の審議会に占める女性の割合が、今現在37.5%ということだが、複数の審議会に参加されている方はどのようにカウントしているのか。

○県

審議会委員の委員としての総合的なカウントということで、重複している。

○委員

色々な審議会を見ていると、県内の方々を中心に集めて議論しているので、女性の審議会のメンバーを増やしていくとなると、重複を完全に無くすことは難しいと思う。県のことなので、県内の方が審議するのは重要だが、一方で外からの目も、非常に大事だと思う。審議の場だからこそ外からの目を入れる、その視点では、女性の方々を全国から選ぶことができるのではないか。女性の割合を増やすというのも、多様な意見を尊重していくということだと思うので、そういった視点も含めて、今後検討していただきたい。

○委員

企業との包括連携に関して、企業自身が望んできているのか、それとも県からの働きかけがあるのか、これから増やしていくときにどういう進め方をして行くのかお聞きしたい。

○県

ありがたいことに、基本的に先方から申出があり、それに対応したという形だが、今後はこちらからの働きかけ等も含めて、さらに増やせるよう検討して参りたい。

○委員

「オープンデータ・ベリーとちぎ」について、オープンデータは、統計に基づく数値

を公表することに合わせて、それをいかに活用していくかということが求められていると思う。とちぎ行革プラン2016の期間内で、どれだけの閲覧件数があったのか。また、そのデータを使って、どういう県民福祉の向上・産業界での展開に、寄与することができたのか。その成果をこの5年間で、どのように把握しているのか。

○県

オープンデータ・ベリーのダウンロード数は、令和元年度の実績が8万件、令和2年度には18万件と、10万件ほど増えているという状況である。

データ活用のあり方としては、現状では、それを使って何か新しい価値を生み出すという取組にまでは、まだ繋がっていない。今後デジタルハブなどの取組の中で、民間との協働で、データの利活用についてさらに検討していく必要があると考えている。

○委員

どのようなデータを産業界・関係団体が求めているのか、そうした必要な情報の掲載についても、引き続き、検討していただくようお願いする。

もう1点、ペイジー収納、スマートフォンを使った決済等、収納の手法が広げられているが、その広げた収納別に、収納率がどのように現れているのか、お聞きしたい。

○県

税務課に確認したが、詳しいデータを持ってないということであった。

○委員

男性の育休取得率が伸びてきた理由をお聞きしたい。

○県

職員等へ取得モデルケースを提示して、例えば1か月弱の育休であれば、手当金が出て、それほどボーナスなどへも影響しないなど、そういう職員の心理的な負担を和らげるような取組や、上司の理解の浸透というのもあると考えている。

(2) 内部統制評価報告書について

－事務局から資料2-1、2-2により説明し、意見交換等を行った。

○委員

新たなこの内部統制という評価を導入するにあたって、それぞれの所属先、事業課等が自己評価・自己点検を行う上で、職員の方たちも不慣れということもあったかと思う。それぞれの職場で、どういった研修や事前準備を経て、内部統制に臨んだのか。加えてその内部統制の自己点検を、それぞれどういった職員の方たちが行ったのか、お聞きしたい。

○県

まず内部監査をやるにあたっては、リスク評価シート、私どもの方から62項目を示した上で、それに対して、各所属において、どういったものにリスクがあって、どういうことに影響を受けやすいのか、間違えやすいのか洗い出しをし、評価シートにまとめている。更にそれに基づき、どうすればミスが減るのかを所属で分析いただいて、チェックをしている。それを私どもの内部監査の中で、その通りにやっているか確認をしてい

るといような流れである。

○委員

内部統制の評価結果について、概ね有効に機能しているとまとめているが、241項目不備があったという数字に対しての受け止めと、報告書17ページの不備発生理由で、制度の理解不足というのが一番多いということに関しての所見を伺いたい。

○県

人事異動に伴う引継などがうまくいってなかったのかなという反省をしており、事務マニュアルの再設定・再確認、あとは、研修の強化などを行って参りたいと考えている。

○委員

内部統制というのは新しい取組なので、どのような課題があったのかを整理して、今後の行政改革に反映していただきたい。また、情報セキュリティ等に関しては、その技術環境・制度状況も変化するので、しっかりとフォローされるよう、周知徹底をお願いしたいと思う。

(3) 栃木県行政改革推進委員会専門部会の設置について

－事務局から資料3-1、3-2により説明し、承認を得た。

(4) その他

○委員

マイナンバーカードは、栃木県の47都道府県、どれぐらい進捗があつて、目指すところはどこなのか、知事は100%と言っているが、どの部署がどういうふうにとか、具体的に示されているのか伺う。

もう1点質問。行革プランの自律的な行政措置基盤の確立の行政コストの削減ということで、そもそもその行政コストの削減というところに働き方改革が含まれるということに違和感があるが、ここで、17件廃止されたイベント・コンクールについて何か重要なものや異議はなかったのか、お聞きしたい。

○県

マイナンバーについては、国は来年度までに国民100%の取得を目指しており、デジタル庁も9月にできるので、取組が加速していくと思う。県の状況については、県職員の取得状況は、5月末現在で93.3%。一方で県民全体は、7月1日現在で31.4%で、全国平均より少し下、高いとは言えない状況である。カード発行主体が市町なので、さらなる普及のために市町との連携が重要である。市町村長会議などで協力を呼びかけたところではあるが、県としても、例えば市町が大企業への出張申請受付などをやる場合に、ノウハウの提供や機材の対応といった協力をを行い、県民の取得率向上に努めて参りたい。

イベント・コンクール廃止については、イベント等にかかる労力と、それに対して県民に効果がどう届いているかとか、そういったものを勘案しながら時代に応じて見直していくということは重要だと考えており、その辺は十分検討した上で廃止をさせていた

だいたところである。

○委員

技能の伝承、人材育成といった観点で、御判断をいただきたいと思う。

○委員

とちぎ行革プラン2021について、やはり2021と区切った以上は、新型コロナの感染拡大が社会、自治体に与える影響も大きいことから、プランの中に、対策を盛り込みたかったなという感じがする。

全体を見て、大規模な感染症対策についての対応の取組というところが位置づけられていない。これは私の意見だが、県民企業等の連携協働のところに医療機関、医療従事者、或いは医師会との連携強化というような項目を入れて、落とし込めなかったかと思った。そうすれば、とちぎ行革プラン2021の、この第7期の意味合いが出てくるのではないかと考える。

○県

医療機関との連携は大変重要であるので、ここには記載はないが、それも当然踏まえて、しっかり取り組んで参りたいと考える。

○委員

コロナの問題、自然災害の増加、少子高齢化、人口減少ということで、今まで想定してない行政の仕事がどんどん増えている。そういうときに、内部統制制度の導入など統制も厳しくなり、行政職員のエネルギーが、そういった書類の作成やシステムの維持管理に取られているのではないかと心配をしている。そういうことがないようなシステム運用などが組み込まれていけばいいのかなど、気が付いた点ということで、申し上げた。

○県

御指摘の部分、留意して進めていきたいと思う。今年度、業務環境最適化調査等事業というものに取り組んでおり、県庁の業務の棚卸し・見直しを行っている。デジタル化技術を有効に活用しながら、効率化、省力化できる部分がないのかなど、検討を進めている。そして次の時代にふさわしい庁内インフラのあり方などの検討も今年度進め、デジタルを最大限活用した新たな時代の行政に向けたロードマップを、作成して参りたい。

○委員

県民・企業等との連携協働の中で、審議会等への女性委員の参加拡大、その審議会の女性委員の内訳としては、いわゆる有識者の方が多いと思う。私の友人知人等で、民間の方で、行政と連携ということを考えて活躍している方も大勢いる。

今後、公募委員の拡充に向けて、県の方でどのようなことをしていくかお聞きしたい、また拡充するために取り組んでいただきたいという希望を申し上げる。

○県

公募委員の数の拡充については、目標を設定して拡大を進めてきた。御意見も踏まえ

ながら更なる検討を進めて参りたい。

○委員

県内の市も内部統制の評価をやろうということで、昨年度あたりから動いている。県の内部統制の評価報告について、市の方も、大変気にしていると思う。評価結果について県内の市町村の担当者を集めた研修会を開催していただけないか。やっていることは県の行政と、市町村の行政とで全く違うところがあると思うが、県の結果が参考になると思う。

○県

検討して参りたい。

○委員

内部統制関係で、例えば情報セキュリティについては、ものによっては、リスクが高いものやそうでもないものとか様々あるので、評価方法、評価内容・項目をどうアップデートしていくかというのは、今後いろいろ検討されていかれるといいかなと思う。

○県

情報セキュリティに関して理解不足も多かったということで、少しでも減らせるように、しっかりと内部で対策を協議して参りたい。